朝日新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738円(税込み 4,037円)、1部売り(税込み)朝刊 150円、夕刊 50円 第3種郵便物認可

届け 防災無線

3・11後 住民意識高まる

自治体が防災行政無線を見直す動きが広がっている。3年前の東日本大震災をきっかけに住民の防災意識が高まり、その役割が再認識されている。大地震や津波に備え、かつて流行したポケットベルの仕組みの利用など新たな伝達手段を導入するところもある。

高性能スピーカー

音声 2倍遠くまで

南米チリ沖地震の津波が各地で観測された3日、宮城県名取市でも防災無線で津波注意報の発令と警戒を呼びかけた。「今回はちゃんと聞こえました」と同市職員は胸をなで下ろした。

同市では、東日本大震災発生直後に市役所内の防災無線機器が故障、避難指示が伝わらなかった苦い経験がある。市の第三者検証委員会は3月、故障を防ぐ工夫がなかった機器メーカーと、メーカー任せだった市の不備といえば「つるさい」だったが、東日本大震災後は「よく聞こえない」に変わった」と話すのは東京都江東区の危機管理課。昨年2月、区内2カ所に音が通常の約2倍遠くに届く高性能スピーカーを設置した。

音の到達距離が通常の約2倍という防災行政無線のスピーカー。イベント会場近くに設けられた＝東京都江東区有明

防災ラジオ

ポケベルの技術利用

防災無線の弱点を補う動きもある。神奈川県茅ケ崎市は昨年、防災無線と同じ内容が強制的に聞こえ、AMやFMも受信する防災ラジオを、ポケベルのサービスを手がける東京テレメッセージと共同開発した。

同市が12年、住民千人にアンケートをすると、半数強が「聞こえない」と回答、「住宅の気密性が高くなっているうえ、風向きによっても影響がある」と分析した。

そこで市はポケットベルの出力の大きさに着目、市が補助し1台2千円（別に通信料が税別で年600円）で購入希望を昨年11月に募ると、「窓を閉めると半数強が「聞こえない」と回答、「住宅の気密性が高くなっているうえ、風向きによっても影響がある」と分析した。

神奈川県茅ケ崎市が東京テレメッセージと共同開発した防災ラジオ＝同市役所撮影

内閣府が2012年8～10月に東日本大震災の被災3県で約1万1千人に調査した結果、大津波警報を見聞きした61％のうち、防災無線で聞いた人が54％で、ラジオやテレビなどを抑えトップだった。

総務省消防庁によると、住民向けの防災無線がある自治体は全国で76％。ただ管理課同士が連絡する防災無線で活用する。市危機行政機関同士が連絡する防災無線で活用する。市危機備えると百数十億円かかるので見送ってきたが、住民の命には代えられない」。

複数手段で伝えて

中森広道・日大教授（災害社会学）の話　私自身、東日本大震災の被災地で調査し、防災無線で大津波警報を聞いた人が多いことを実感した。ただ、大雨のときなどに聞こえにくいといった課題もある。自治体は複数の手段を使って災害情報を住民に何とか伝えることが大切だ。

三鉄 笑顔と希望乗せて

南リアス線 全線再開

おかえり三鉄――三陸鉄道（岩手県）の南リアス線が全線で運転を再開した5日、沿線には多くの住民や鉄道ファンが詰めかけ、東日本大震災から3年1カ月ぶりの復旧を祝った。6日には北リアス線も全線が復活する。

津波の爪痕がまだ残る岩手県釜石市中心部を走る三陸鉄道南リアス線の列車＝5日夕、福留庸友撮影

三鉄は津波で橋脚やレールなど317カ所が壊滅的な被害を受けた。南リアス線の釜石―吉祥聞（15・8キロ）と、北リアス線の田野畑―小本間（10・5キロ）が、最後まで運休が続いていた。

5日は大船渡市の盛駅で2両編成の記念列車の出発式があり、望月正彦社長は「地域の生活の足としての役割を果たし、全国から多くの観光客を迎えたい」。釜石市の唐丹駅前では大漁旗がはためき、「おめでとう」と子供たちが書いた大きなメッセージも。7歳の孫と駆けつけた山崎静子さん（71）は「三鉄は貴い物に行く時に使っていた。バスで通勤していた人もまた、三鉄で通える」と喜んだ。

震災時は5日後に運賃無料で列車を走らせ、被災者を勇気づけてきた三鉄。4歳の息子を連れた釜石市の病院職員佐久間あずささん（38）は「列車が被災した沿岸を走るのは、復興に向けた良いきっかけになる」と話した。（阿部浩明、山浦正敏）

デジタル版に動画

真冬並み寒気 大荒れの恐れ

関東・甲信など

気象庁は5日、上空に真冬並みの強い寒気が流れ込む影響で、6日は九州から北陸、甲信・関東の広い範囲で雷雨や竜巻、ひょうが降る恐れがあるとして、注意を呼びかけた。

同庁によると、6日は大気が非常に不安定となり積乱雲が発生、急に強い雨が降ったり、激しい突風が吹いたりするほか、標高の高い所では雪となる所もある見通し。天候が急に変化した場合、建物内に避難するなど安全を確保するよう促した。

さいたま突風 竜巻の可能性

さいたま市で発生した突風について、熊谷地方気象台は5日、現地調査した結果、竜巻の可能性が高いと発表した。

突風は4日午後に発生し、小学校倉庫や民家の屋根などが飛ばされた。同気象台は、発生時に発達した積乱雲が上空を通過中だったことや被害が帯状に分布していること、激しい風は短時間だったとの目撃情報などから、竜巻の可能性が高いと判断したという。同気象台は、この竜巻の強さを、藤田スケールで最も弱い「F0」と推定している。

春のデュエット

埼玉県幸手市の県営権現堂公園で桜並木と菜の花畑が見頃を迎え、ピンクと黄の競演が鮮やかだ。あと1週間ほど楽しめるという。桜並木を管理する保存会によると、大雪が降った2月の冷え込みで、菜の花の咲き始めが例年より数日遅れた。日没後は約1千本のソメイヨシノのトンネルに照明がともる。（遠藤啓生撮影）

	6	9	12	15	18	21	24時	7(月)	8(火)	9(水)
札幌							30	10	0	20
青森							30	10	0	20
仙台							40	10	0	20
新潟							80	10	0	20
宇都宮							30	10	0	20
前橋							30	10	0	20
水戸							50	10	0	20
さいたま							50	10	0	20
千葉							50	10	0	20
東京							50	10	0	20
横浜							50	10	0	20
甲府							30	10	0	20
静岡							30	10	0	20
長野							20	10	0	20
名古屋							70	10	0	20

	6	9	12	15	18	21	24時	7(月)	8(火)	9(水)
大阪							50	10	0	20
広島							40	10	0	20
高松							50	10	0	20
福岡							10	10	0	20
鹿児島							10	10	0	20
那覇							10	20	20	20